

## 22 伊勢物語愚見抄 一冊

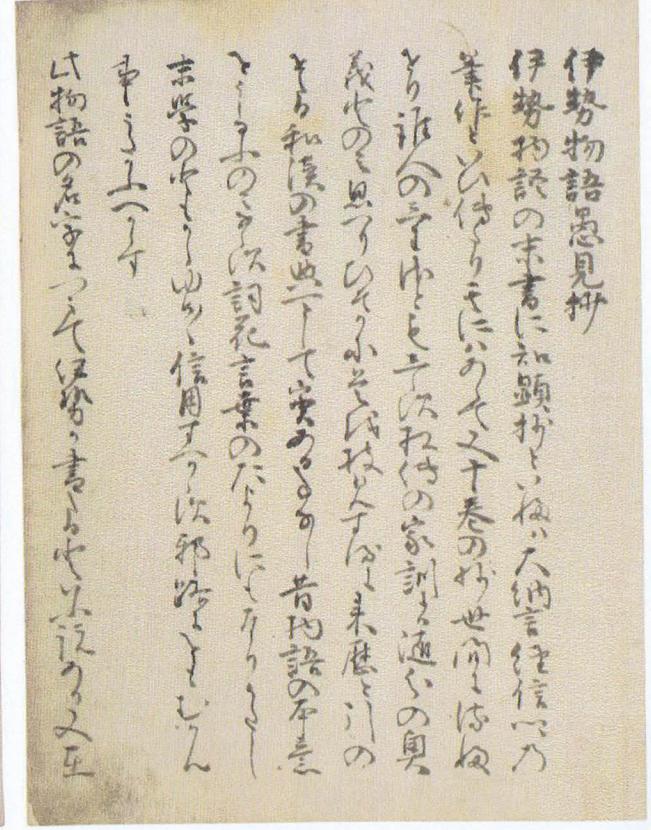
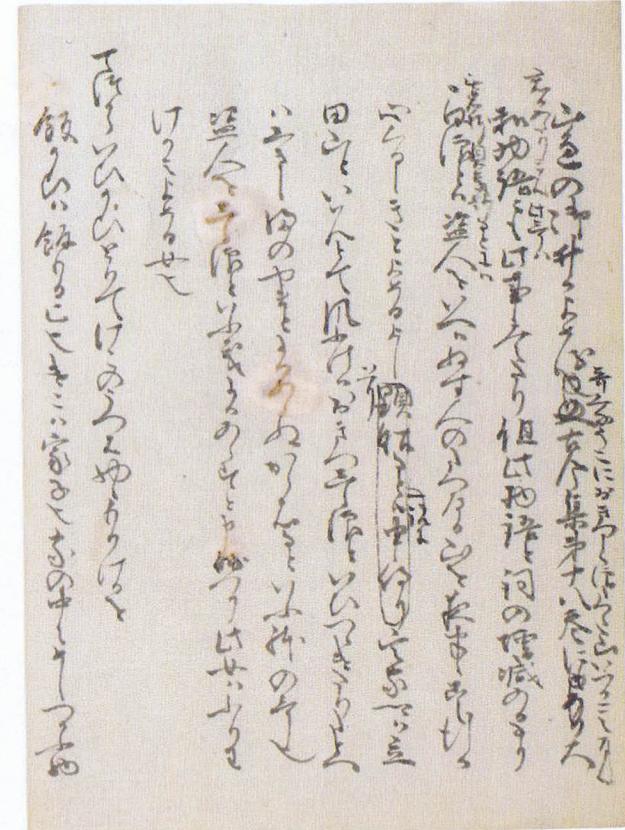
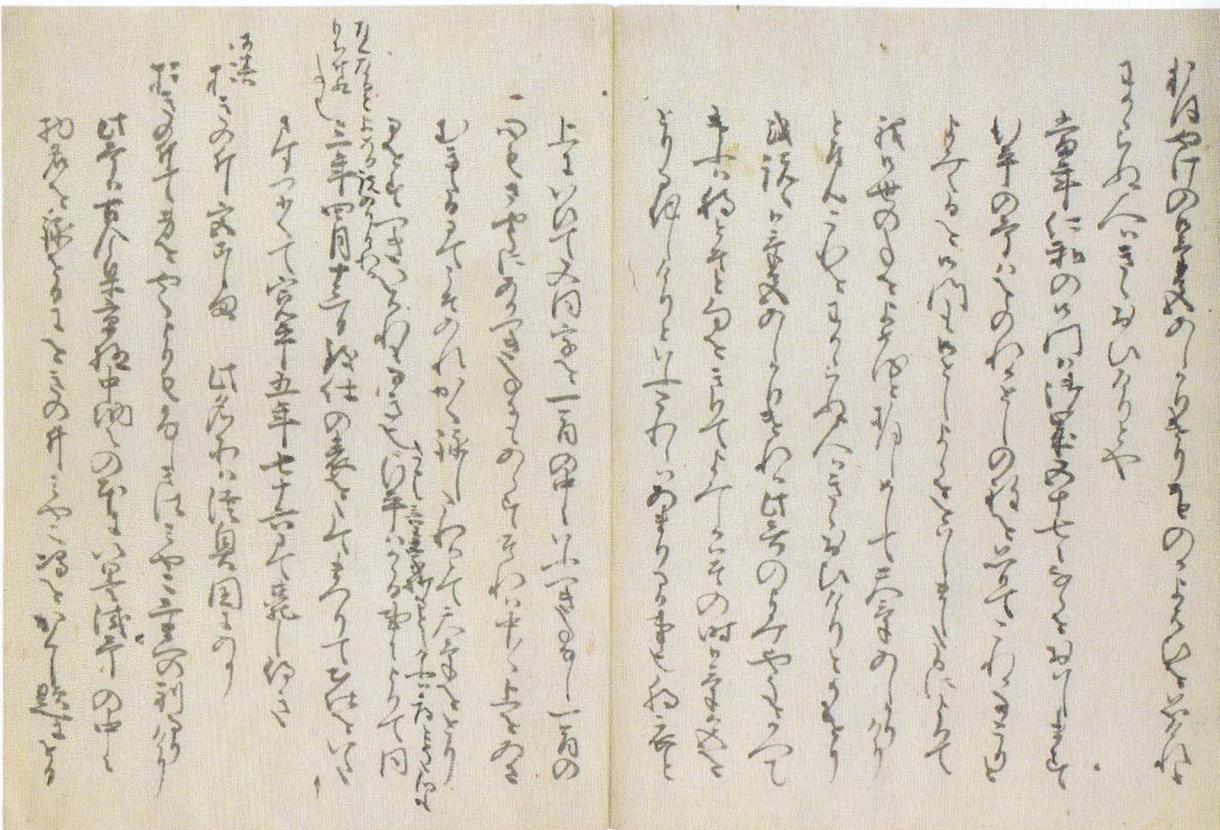
1,000,000円

一条兼良 江戸初期写 初稿本系統

伝対馬藩宗家伝来

豎26種 横20・9種 箱入

### 伊勢物語愚見抄



一条兼良（一四〇二～八二）の著述による『伊勢物語』の注釈書。内容は、卷頭に序説を置き、本文は見出し語、和歌は全句を挙げて簡明な解説を施したものである。『伊勢物語』の学術的注釈の最初のものといわれ、後注に大きな影響を与えた。

本書はその江戸時代初期の書写本で、大型の楮紙袋綴本一冊。牡丹唐草模様の濃緑地表紙を付し、その中央上部に題簽を貼り「伊勢物語愚見抄」と外題を記す（内題も同名）。

本文はやや早筆で、毎半葉十行書の漢字平仮名交じり文にて書写され、難解な漢字には、片仮名による振り仮名が付けられている。同じく兼良著の『古今集童蒙抄』などを参照し、一部に同筆にて傍注が施され、巻末には「長禄四年の年冬の末つかたかの物語をひらきみ侍るついて愚見のおよふところをいさゝかしるしいたし侍り」との仮名本奥書が記されている。

本文系統は、長禄四年（一四六〇）に成立した初稿本と文明六年（一四七四）に訂正増補した再稿本とに大別されるが、本書は、奥書の示す通り、初稿本系統に属するものである。ただし、再稿本の特徴を示す注もみられることから、刈谷図書館蔵本同様、初稿本から再稿本に至る過渡的な本文を存するものと思われる。

『伊勢物語愚見抄』の伝本は、そのほとんどが再稿本系統のものであり、初稿本系統に属するものは極めて稀で、桃園文庫や斑山文庫旧蔵本など数点を知るのみである。本書は、再稿本との混成もみられるが、伝本稀な『伊勢物語愚見抄』の初稿本として、その稀覯性・価値は言うに及ばず、兼良の伊勢物語研究の出発点と過程を知る上で、多くの重要な資料を提供するものである。

